

会議概要

- (1) 開会式
- (2) 議題1「日本側各機関（外務省・国際交流基金）と協力しつつ行う交流事業について」
- (3) 議題2「日本側交流団体と行う交流事業について」
- (4) 議題3「ロシアの地元社会（行政府、ビジネス、マスコミ、教育機関など）との協力について」
- (5) 自由討論
- (6) 会議総括・提案
- (7) 講演「日本のポップカルチャーについて」
- (8) 交流レセプション



(1) 開会式

●開会の挨拶（今村在ロ大使・広報文化部長）

本年は、例年ロシア国内で開催している対日友好団体代表者会議を、日露青年交流事業の枠組みを活用して各団体の若手代表者を訪日招待し、初めて日本において開催。両国における人的交流の規模は他の隣国と比較すれば、未だ不十分である。今次代表者会議がロシア友好団体間の協力・連携の推進並びに日本の交流団体との協力・推進のきっかけとなり、また、日露双方の今後の活動に実り多い結果をもたらすことを希望する。

●挨拶（山村ロシア交流室長）

日露は隣国であるが二国間関係の水準は、本来有している潜在力に比べればより一層緊密な関係を築き上げていく可能性を有している。そのためには、日露の若者が交流し、相互理解、信頼関係を深めていくことが将来のさらなる関係強化につながっていく。今次代表者会議では、ロシア代表者間及び日本の交流団体との関係強化を通じて、今後の活動へ向けた良いきっかけを得て頂きたい。

(2) 議題1 「日本側各機関（外務省・国際交流基金）と協力しつつ行う交流事業について」

<日本側>

●日露青年交流事業について（川勝日露青年交流センター事務局長）

日露青年交流事業の概要につき説明。（参加者からの交流分野に制限があるのか問う発言に対し、）年齢制限（原則として40歳以下）はあるが、分野は制限なし。交流を希望する具体的な案があれば、是非相談して欲しいと説明。

●国際交流基金について（上野国際交流基金海外事業戦略部海外拠点課課長代理）



基金の活動の3本柱（文化芸術、日本語教育、日本研究・知的交流）に沿って事業概要、事業スケジュール及び申請方法につき説明。続いてロシアでの活動実績並びに本年1月から国際交流基金モスクワ事務所が活動を開始した旨紹介。

参加者からは、以下の質問・要望がなされた。

- ・モスクワ以外のロシアの都市に事務所を開設する予定はあるか。
- ・（アバニナ・カザン市「サクラ」代表）日本の伝統舞踊のグループを招待したい。
- ・（リクノヴァ・アルセーニエフ博物館職員）日本の工芸品の展示会を開催したい。日本から展示品の貸与を受けられるか。
- ・（エヴドキモヴァ・ウラジオストク日本文化同好会代表）料理を学ぶ学生に日本で研修を受けさせたい。
- ・（エヴセエヴァ露日協会サンクトペテルブルク支部運営委員）日本語教師の日本での研修機会を増やして欲しい。

●在外公館による文化事業について（今村公使）

実施した具体的な事業を紹介するとともに具体的提案があれば是非在外公館に相談して欲しいと説明。平成21年度の広報事業の優先分野として、ポップカルチャー、日本語教育、和食、日本への観光の促進の4分野につき説明。

参加者からは以下の質問がなされた。

- ・（ソロヴィヨヴァ・露日協会エカテリブルク代表）日本紹介や漫画を出版する際、自力で解決が困難な問題にぶつかることがあるが、協力は得られるか。
- ・（ヴォイノヴァ・サンクトペテルブルク市文化委員会国際関係部首席専門官）デザイナーや建築家の専門家をロシアに招待したい。
- ・（エヴセエヴァ露日協会サンクトペテルブルク支部運営委員）ロシア人に日本へのツアー旅行を紹介する機会を得たい。
- ・（ヤンファ東洋芸術センター長）アニメーション・漫画を制作するための講習を中学で行っているので、協力していきたい。

<ロシア側>

●クルチナ露日協会モスクワ本部事務局長



団体の概要及び、和菓子教室の開催など、大使館や国際交流基金などと協力して実施した事業につき紹介。また、広報・交流のための手段としてインターネットの有用性につき説明。インターネットを通じて必要な情報入手、提供することが手軽にでき、また、露日間で直接連絡を取ることができる。

インターネットは特に若者が良く使用するコミュニケーション手段であるため、効果的に利用することで若者の日露関係への関心を喚起することができるのではないかと。

●エヴドキモヴァ・ウラジオストク日本センター附属日本文化同好会代表

団体の概要及び日本センター、日本ウラジオストク協会などと協力して実施した事業につき紹介。現在会員数は64名で公務員、医者、ビジネスマン等様々な職種の会員がいる。会員がそれぞれの強みを活かし現在5分野（生け花、文学、着物、姉妹都市、ビジネス研修）で活動している。

●エヴセエヴァ、ダンシナ・サンクトペテルブルク露日協会代表

団体の概要及び、総領事館、国際交流基金と協力して実施した事業につき紹介。日本文化への関心の高さ、日本文化紹介事業への期待につき説明するとともに、日本人専門家の不足から継続した事業実施が困難である旨説明。

●ポロドキン・21世紀委員会サラトフ支部代表

団体の概要及び活動につき説明。日本側と協力して事業を実施していきたい方向性として3つ説明。第一に、学生交流（サラトフでは30カ国からの学生が学んでおり、52の学術機関が存在する）、第二に起業支援（起業について知識が不足している）、第三に東京のニコライ堂を縮小コピーした教会を設立予定で、建物内には、展示室、宿泊施設を付属するところ、日本側と協力して折り紙展や、日本語教室を開催したい。

●ソロヴィヨヴァ露日協会エカテリブルク支部代表

活動内容を紹介。日本側と協力して実施したい事業として、日本学に関する研修、日本語研修、通訳研修、ビジネスフォーラムの開催を提案。（今村公使より、研修ではないが、日本に関心を有している若者がテーマを持って訪日するというのであれば、日露青年交流事業を活用できると考えられるので、具体的な希望があれば大使館や総領事館に相談して欲しい旨回答。）

●ブルミストロヴァ茶道グループ「茶の湯」代表(サンクトペテルブルク)



団体概要、活動内容を紹介。同グループは、エカテリブルグ、NISにも支部があり、毎年8月の2回目の日曜日にモスクワで茶会を開催している。国際交流基金の協力で、裏千家の西川先生に来ていただいた。また、山田みどり先生に監督いただき市内の植物園に日本庭園を造るなど、草月、池坊とは定期的に活動している。今後、日本庭園に茶道・書道などの専門家を招へいしたいと考えるので、援助をいただきたい。

●プストフスキフ・ハバロフスク対外友好協会青年委員会代表



団体概要、活動内容を紹介。総領事館や国際交流基金などと協力しながら日露の若者が互いにより近く感じられるよう文化紹介事業、交流を行っていききたい。



(3) 議題2 「日本側交流団体と行う交流事業について」

<日本側>*敬称略

- 日ロ交流協会 <http://www.nichiro.org>



代表： 岡本佳奈子

団体概要、活動内容（ロシア大使館との共催による合同新年会、ポリショイバレエ学校へのバレエ短期留学ツアー、ロシア留学支援、ロシア語教室、日本やロシア各地で日本文化紹介事業、セミナーなど）を紹介。

- 日ロ文化交流センター <http://www2c.airnet.ne.jp/jarucul/index.HTML>



代表： 吹井麻由子

団体概要、活動内容を紹介。

- 日本ウラジオストク協会 <http://www.geocities.jp/biennale2007/>



代表： 田代 紀子 副事務局長

団体概要、活動内容、特に、1998年から開始したウラジオストクでのビエンナーレについて紹介。現在会員数は95名、7団体で日本全国にいる。日露の文化交流、人的交流を通じて、横のつながりを作っていきたい。ロシアのパートナーと事業実施の経験を分かち合いながら、今後も両国間の交流が活発化していくよう活動していきたい。

- 日本対外文化協会 <http://www.taibunkyo.com>



代表： 藤巻 裕之

団体の歴史、特に、創立者（松前重義）について説明の後、活動内容（ロシア語教育、学者間交流、ジャーナリスト交流、シンポジウム）につき概要説明。学生間交流については、日露学生会議、東海大日ロ交流クラブと協力している。

- 日本ユーラシア協会<http://www.kt.rim.or.jp/~jes/>



代表：浅野 真理

団体の歴史、団体理念、活動内容（民間交流、ホームステイ、ロシア語教育等）につき説明。

- 札幌国際プラザ<http://www.plaza-sapporo.or.jp/>

団体概要、姉妹都市であるノヴォシビルスクと札幌の交流、ロシア語教室につき説明。



<ロシア側>

- リュスコフ・ノヴォシビルスク市立文化センター「シベリア・北海道」代表

団体概要、活動内容（札幌との交流、日本の伝統武道（空手、剣道等）や囲碁・生け花教室等）につき説明。

- ガヴロ露日協会クラスノヤルスク地方支部代表

活動内容（日本文化紹介、相互訪問、抑留者支援、文化交流、日本語教育）につき説明。

- ヴェリュハノヴァロ日協会ノヴォシビルスク州支部代表

活動内容（15年間活動、ホームステイ事業）に説明。アルタイの観光交流をしたい。

- アバニナ・カザン市タタールスタン日本文化情報センター「サクラ」代表

活動内容（アニメフェスティバル「フェニックス」、 「言語フォーラム」、日本舞踊教室等）につき説明。「フェニックス」ではコスプレや漫画が披露される。本年も3月下旬に開催する。本年秋には「言語フォーラム」と「専門家フォーラム」を同時開催。2013年夏にはカザン市でユニバーシアードを開催。

- ゾリナ・シュミヤキン基金代表（サンクトペテルブルク）

団体概要、活動内容（浮世絵、琴、着物、日本人形、生け花の展示会、第4回、8回の「日本の春」に参加。）を紹介。2002年に設立された慈善団体であり、障害を持つ子供たちの作品を集めた展覧会等も行っている。これまで他の団体と協力して事業を行った経験がないので、今後、共同して事業をしていきたい。）

●プロニナ東洋センター代表（サンクトペテルブルク）

独立法人として創立して4年になる。ロシア北西地域の子供たち500人が東洋（日本のほかに、韓国、中国、インドが対象）研究発表大会に参加した。

●タラエフ作曲家・音楽家協会執行役員（サンクトペテルブルク）

団体概要、活動内容を紹介。40年の伝統を持つ文化大学のロシア民族楽器音楽アンサンブル「スカモロヒ」として「日本の春・秋」に参加した。日本からマンドリン・オーケストラが来てくれた。

●リクノヴァ沿海地方日本友好協会、アルセーニエフ博物館職員（ウラジオストク）



団体概要、活動内容（相互受入、セミナー等）を紹介。日本のユーラシア協会、日本人抑留者の会と協力している。これまで59の墓参団を受け入れた。美術館交流も盛ん。日本の無声映画を極東で上映するといった事業を行いたいと考えている。学芸員グループの双方への派遣を企画してはどうか。

●ヤンファ・東洋芸術センター長（ウラジオストク）

団体概要、団体理念、活動内容につき説明。

●ガビシェヴァ露日協会ヤクーツク支部代表（サハ共和国）

団体概要、活動内容につき説明。日本の大学と姉妹提携を結びたい。

●アンドロソフ対日友好団体「レンメイ」代表（サハ共和国）

団体概要、活動内容（アニメ雑誌発行等）につき説明。



●ロセヴァ・サハリン日本友好協会代表

団体概要、活動内容につき説明。旭川と姉妹都市。2008年は障害者ツアーを行った（函館、旭川を訪問）。民族衣装展、児童絵画展を行った。日本におけるロシア人音楽家のコンサートを定期的に企画している。

(4) 議題3「ロシアの地元社会（行政府、ビジネス、マスコミ、教育機関など）との協力について」

<日本側>

●日本センターについてhttp://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/shien/j_center.html

（朝井ロシア支援室事務官）

センター概要、活動内容につき説明。ダンシナ・サンクトペテルブルク日本センター職員が積極的に発言し、センターの具体的な活動実績等を補足。参加者からは、以下の質問があった。

。

- ・ビジネスマッチングの成功例。
- ・ビジネスマン向けのセミナー内容。
- ・訪日研修への参加方法。

<ロシア側>

●ソロヴィヨヴァ露日協会カーメンスク・ウラリスキー支部「鶴」代表

団体概要、活動内容（折り紙教室、日本関連図書の図書室、日本伝統祭等）につき説明。

●イヴァンツォヴァ・サンクトペテルブルク第83番学校（バラの学校）代表

地元行政府などと良い協力関係を築いているとして、活動内容（日本語学習、各種フェスティバルへの参加、文化的・人的交流等）につき説明。「バラが咲いた」（校歌）を歌唱。マスコミとも良い関係を築いており、新聞に良く取り上げられている。

●ホドヴァ露日協会クルスク州支部代表

団体概要説明。地元小学校との協力事例として、折り紙教室、展示会を紹介。また、マスコミとも良い関係を築いており、定期的に取り上げられている。

●ミヘエフ露日協会ムルマンスク州支部代表

行政府からの支援はまだ無いため、今後、行政府、マスコミ、ビジネスマンとの協力の方途を探していきたい。自然に恵まれた良い地域だが、査証取得の問題やツアーがないといった問題があり、日本からの観光客は数名しかない。今後、問題解決努力をしながら観光分野を活性化していきたい。

●ヴォイノヴァ・サンクトペテルブルク市文化委員会専門官

サンクトペテルブルクで行われる文化事業を支援しているとして、具体的な事業例を紹介。日本関連の文化行事は大変多い。

●ヴァシリエフ・サントペテルブルク人文プログラムセンター代表

非政府間交流として文化・芸術家同士の交流を進めており、総領事館、マスコミ、日本センター、地元交流団体、ビジネスマン等と協力して行っている事業として、コンサート、オペラの開催につき紹介。

●ゾリチ・サントペテルブルク第27番学校代表

第3外国語（第1、第2外国語は英語または独語）として希望者は日本語（今年で12年目）を学ぶことができる。日本語学習の中では、総領事館の協力を得ながら日本文化・習慣・和食についても学んでいる。

●ホヴェネツ東洋囲碁クラブ・露日協会極東支部代表（ウラジオストク）

団体概要、活動内容を説明。モスクワ国立大学との協力により活動を開始した。地元大学とは非常によい協力関係を築いており、マスコミとも良い関係にある。また、東洋芸術センターとも協力している。現在、150名が囲碁を学んでいる。スポーツ委員会とは協力関係にないが、スポンサー（＝ホヴェネツ氏自身）もあり活動を続けている。（他の参加者からインターネットを通じた囲碁大会や鉄道を使って囲碁教室・大会キャラバンを行ってはどうかとの提案あり。また、ロシア政府はチェス、ブリッジと共に囲碁もオリンピック種目とすることを検討しているので、今後支援を得やすくなるのではないかとのコメントあり。）

●ロバノヴァ日本文化センター「ハマナス」代表（ワニノ）

地元との協力は十分とは言えないが、地元団体の相談に乗ったりしており、今後、地元の組織と関係強化していきたい。現在は、ファッションショーや観光振興のための活動を行っている。

●シネルニコヴァ露日協会アムール支部「初夢」代表（ブラゴヴェシensk）



行政との関係を深めるべく働きかけている。昨年、州政府の諮問委員会のメンバーとなり、外国のパートナーとの協力計画を立てたが、現在の日本の団体が含まれていないので、協力関係にある日本の団体と協力して州政府の関心を日本につけるよう努力したい。上越との姉妹都市関係締結の話が進んでいる。共に宇宙基地がある都市として種子島と科学協力をしたい。第16学校が中国との交流を盛んに行っており、この度国際文化センターとされた。同校は日本との交流にも関心を持っており、日本語教室の開催などの協力をしているが、熟練した日本語教師がいないため、不十分。交流活動としては、ブラゴヴェシensk小児病院の医師の日本での研修、日本人写真家の写真展を開催した。

●レウツカヤ・サハリン日本センター同窓会クラブ「ディアナ」表

ビジネスマン、マスコミ、日本センター、行政府と良い関係を築いている。マスコミも行政府も避けずに心を開いて行けば良い関係が築ける。

●オガネシアン露日協会サハリン支部代表

北海道日ロ協会と協力してセミナーを開催。

(5) 自由討論

閉会に先立ち、参加者に対し要望や提案、感想を自由に述べるよう提案したところ、各自の発言以下のとおり。

・（リュシコフ・シベリア・北海道センター代表）事業を実施する際、地方行政府に対して大使館や総領事館から働きかけて頂きたい。（今村公使より、大使館や総領事館が実施する事業には行政府と協力してする機会が多いので、そのような事業に積極的に協力していただきたい。その中で、行政府と関係を築けるのではないか。（先方の依頼に応じて）事業への貴団体の参加・協力に対する感謝状を行政府に対し送付することは検討可能である。）

・（ダンシナ・サンクト日本センター代表）討論の時間をより多く設けて欲しい。日本の学生ともっと交流を行いたい。

・（レウツカヤ・サハリン「ディアナ」代表）訪日前に連絡先をもらえれば事前に報告内容を調整できる。

・（ヴァシリエフ・サンクト人文プログラムセンター代表）自分たちと同じような活動をしているロシアの団体の活動について知ることができ、一体感を感じることができた。希望をいえば、日露参加者数を50対50として、討論をしたい。会議テーマをもっと早く知らせて欲しい。

・（クルチナ露日協会事務局長）代表者会議を開催する際には、分離開催では参加者数が少なくなってしまうので一カ所で開催して欲しい。

(6) 今村公使による会議総括・提案

●積極的な発言、提案に感謝。今次会議で得られた知識や知己を活用して、更に日口交流が活発化することを期待。4月から日本は新会計年度に入るので、新年度の事業について良いアイデアがあれば各在外公館に相談いただきたい。

●参加者間での情報交換、協力を支援するためにも、今次会議に参加したメンバーを対象とするネットワークを築いてはどうか。例えば露日協会のウェブサイトにも各団体からの活動報告を掲載するというアイデアはどうか。

(この提案に応じてクルチナ氏より「良いアイデアである。ウェブサイトをつくり、各団体の活動を例えば四半期毎に報告してもらい、適宜抜粋した情報をサイトに掲載するといったことが考えられる。サイトを立ち上げるにあたってはサイト名を決める必要があるので、参加者からサイト名を募集したい。これはといったネーミングがあれば私(クルチナ)に提出してもらいたい。」との発言があり、参加者からは賛成の意思表示がなされた。)

●最後に、青年は将来を担っている。青年間で友好を築いていくことは将来のよりよい関係をもたらすことにつながる。その観点から、今次会議は大変有益であったと考える。

(7) 講演 「日本のポップカルチャーについて」 (講師：コンテンツメディアプロデューサー 櫻井 孝昌)

① 世界的なアニメ人気

●欧州諸国だけでなく、サウジアラビア、ミャンマー等の国々においても、アニメ、漫画は大変な人気を博していた。自分(櫻井講師)の講演にも多数の聴衆が訪れ、毎回盛況である。我々が想像する以上にアニメが各地において浸透している。

●日本アニメが海外で人気のある理由としては、内容が綿密でメッセージ性が強く、出来上がりも高質であり、大人の視聴にも十分に耐え得るものであること等が挙げられる。



②アニメ再評価

現在、「アニメ」という単語は「日本のアニメーション」を指している。映画「マトリックス」が日本のアニメ「攻殻機動隊 GHOST IN THE SHELL」の影響を強く受けているように、世界の映画監督が日本のアニメを評価し始めたことで日本国内でもアニメを見直し始めたきらいがある。かつては、外国人は日本アニメを日本製であることを認識せず観ていたが、現在ではほとんどの人々が日本製であることを認識して観ている。

③日本独自のもの

アニメ制作には、大変な手間と高度な技術、多大な人手が要求される。手描きを中心にした高品質なアニメを大量に量産できる国は現状日本しかないのではないだろうか。

(講演の最後に、櫻井氏がプロデュースしたビデオクリップを上映。参加者からは日本のアニメに関する質問や日本アニメに関するコメントが多数あり、日本アニメに対する強い関心が伺われた。また、参加者からはロシアでも講演をして欲しいとの希望が複数述べられた。)

(8) 交流レセプション

交流レセプションには、ロシア側各代表者及び日本側友好・交流団体代表者など約100名が参加し、参加者の間で積極的な交流が和やかに行われた。会議中に語りつくせなかったことを納得いくまで話し合い、日本側の代表者らとも交流の場を持つことができた。

交流レセプションでは、ロシアではなかなか聞くことのできない日本の伝統音楽である津軽三味線の演奏(演目:「津軽じょんがら節」)を披露。参加者は和服を着て演奏する小山正貴氏、小山慶一氏の津軽三味線を興味深く聴き入っていた。

演奏後、ロシアからの参加者は津軽三味線について奏者に質問をするなど、日本文化をより間近に感じる良い機会でもあった。

